

震災への想い

柏崎市立高柳中学校 一年 樋口 夏美

一年たっても忘れられないあの出来事。

この日の夕食はおでんだった。うきうき気分

でその時間を待っていた。そして、雑誌を

開こうとしたとたん、悪夢の瞬間が起きた。

パリン

目の前が闇に包まれた。大きな恐怖と、不安

が一瞬にのびた。その時、祖父は風呂にい

れた。大丈夫だろうか。すぐ見に行きた。入る

前が、たのげがはしていなか、た。

一旦、地震が止まった。

ここからどうなるのか心配だ。あせる気持ち

でいっほいだ、た。

近所の人達と外に避難した。学校から帰

て来たばかり。何も食べていない私と姉は、

お腹がすいていた。でも、家には戻れない。

そんな時、前の家のお姉さんがお母をく

た。すぐくおいしか、た。この地震が起こ

てからの、何よりの幸せな時間だった。

そして二回目の揺れ。この揺れも大きい。
みんなで服にしがみつき、揺れがおさまるの
を待っていた。

この日の寝た場所は車の中だった。いつも
寝ている所より、狭く、寝にくい。正直、何
故ここで寝なまやいけないのか、とその時は
思っていた。でも今考えると、そう思ってい
た自分は甘いのだ、と思った。

阪神・淡路大震災ー

家や建物が壊れ、道にも亀裂が入り、人の命
までものが失われた。どうだろう。自分が体験
した地震とはけたが違う。多くの人が悲しく
だだろう。後で知ったのだが、この中越大震
災に神戸の皆様さんが救援活動されてくれたの
だ。なんてことをだろう。自分には、思いもよ
らぬ情報だった。

このように、この震災があつたから、温か
い絆が生まれてはならないか。

今でも、この出来事は心のすみに終つてあ
る。